

日本の多国籍企業

トムソン・ロイターの
ONESOURCE™ FTA Management
で成功に向けて 快走、FTA管理の
実現で数百万ドル 削減

導入のきっかけ

日本とヨーロッパは互いに重要な貿易パートナーですが、両者の間にオープンな貿易圏が形成されたのは2019年の初めになってからのことでした。それまでは、両地域の各企業が数十億ドルにもものぼる関税を支払っていました。

その例にもれず、日本のある多国籍メーカーも、EUが最も高い収益を生み出す市場の一つであったため、数百万ドルもの膨大なコストを関税に費やしていました。

同社は、日欧間の協定が議論される中、先を見越した形でコンプライアンスの簡素化を目指した選択肢の評価を始めました。日EU・FTAは、貿易規模がはるかに大きく、関連する自己申告にまつわるリスクも非常に高いので「ルールが全く異なるスポーツ」とも例えられました。

それまでFTAの管理を手作業で行っていた同社は対応に苦慮しており、既存の複雑な基幹業務システムと統合できる包括的なFTAソリューションを求めています。そして選択肢評価の一環として同社に導入されたのがトムソン・ロイターのONESOURCE FTA Managementプラットフォームでした。

導入アプローチ

ディープダイブ・ワークショップ: トムソンロイターの国際貿易専門家チームは導入に際し、トピックごとに詳細なワークショップを数多く実施し、クライアントのビジネスと状況の理解に努めました。

POCの実施: そこで得た情報に基づき、専門家は、明確な概念実証(POC)の実施計画を伴う将来のロードマップ構築支援を提供しました。



新しいFTA(日欧間)が迫っている



複雑なERP



違反のリスクと高い罰金

ONESOURCE FTA Managementが選ばれる理由

クライアントは、FTA管理を目的としたソリューションを調査し、ONESOURCE FTA管理のソリューションがまさに要望に合致したものであると考えました。本ソリューションの機能性と包括性に優れている点が評価されました。

POCの段階においても、使いやすいインターフェース、あらゆる地域をカバーし直ちに対応できるシステムがクライアントチームの高い評価を得ました。

ONESOURCEによるITを用いた最先端のテクノロジーにより、FTA管理に携わる従業員の生産性が向上し、業務削減による大幅なコストカットが実現できたことも、クライアントの国際貿易チームが実感を持った点の一つです。

また、このソリューションは機能面においても以下の点で優れています。

卓越したデータ取り扱いと処理を実現する Automated Origin Determination(自動原産地特定)

複雑な部品票を高度な解析により情報として統合します。その上で、クラウド対応システム上で同時に、複数の貿易協定の原産地規則に照らした分析結果を迅速に提供します。

自己申告を自動化した Auditable Compliance(監査可能なコンプライアンス)

自動にて申告書の作成から申告まで行いミスのないワークフローにて業務を遂行できます。また、潜在的なペナルティリスクを軽減し、特惠等の申請に関し監査証跡も管理します。

1

強靱なFTAソリューション

2

ユーザーフレンドリー|グローバル対応|システム対応

3

強力な導入ロードマップ

インパクト

トムソン・ロイターが、POCの段階でクライアントの信頼を勝ち取ることができたのは、特に、明確に策定された実装プログラムとロードマップによるものです。

クライアントは、ソリューション導入初年度にして関税の節税を通じた大きな結果を手に入れました。同社は、日EU・EPAのみで年間数百万ドルもの削減効果を実現することができたのです。

その成果は、研究開発部門から販売部門に至るまで組織全体に及んでいます。削減したコストをイノベーションプロジェクトに振り向けることができ、関税の節税メリットがコストダウンという形でエンドユーザーに還元することも可能となりました。トムソン・ロイターにとっても初の日EU・EPA案件であったことから、両社にとってWin-Winの結果となりました。



数百万ドルの関税削減



コスト削減は、コストダウンという形で最終消費者に還元



当地域で最初のJP-EU EPA実施



☎ 03-4520-1350

✉ marketingjp@thomsonreuters.com

the answer company™
THOMSON REUTERS®

お問い合わせ先